

指導部だより 第18号

常に周囲の安全に気を配り、危険を予測して身を守る

「かけがえのない命」大切にできていますか？

「かけがえのない」とは、「かわりになるものがない・何よりも大切である・絶対に失いたくない」ということを意味する表現です。

先日、敦賀市の中学生が、信号機のない横断歩道上で車にはねられ、頭を強く打つなどして、意識不明の重体になるという痛ましい事故が発生しました。指導部だより第15号では、**自分自身が交通ルールやマナーを守っていたとしても、重大な事故に巻き込まれる可能性があること**をお伝えしましたが、今回の事故も例外ではなかったようです。**危険を予測した安全行動をとり、自分で身を守ることが大切**であることは、機会あるごとに伝えていますが、今回の事故を、自分にも起こりうる事故だと受け止め、下記の安全行動について再度確認してください。



命を守る安全行動について再確認しよう

自分ができているところにチェックを入れ、できている項目は今後も続けていきましょう。

- ☐ 自転車は、横断歩道を降りて引く。
(横断歩道の外であれば、安全を確保しながらスロースピードで乗車してもよい。)
- ☐ 横断歩道や交差点を渡る前には、**青信号であっても「一旦止まる」「左右をよく見る」**
「車が止まっている(車がない)ことを確認する」(車や自転車、人が急に出てきても対応できるようにするため。)
- ☐ 横断歩道や交差点を渡り終えるまで**「車等が向かってこないか」**確認しながら渡る。
- ☐ **自転車はスロースピード**(すぐ止まれる速さ)で横断歩道や交差点を渡る。
- ☐ 道路を横断する際は、**運転手と目を合わせる**。(目が合わない、または合っているか分からない場合は、車が動くかもしれないと危険予測をし、車の動向に注意する。)
- ☐ 横断歩道を渡るときは、手を挙げて横断したいことを運転手に伝える。
- ☐ 夕方以降に自転車に乗るときは、**明るくてもライトをつける**。(自転車がいないことを車の運転手に伝える。)
- ☐ 交差点では、**車や自転車、人が出てくると常に予測する**。(危険予測)
- ☐ 改正道路交通法により、自転車乗車時にはヘルメット着用の努力義務があることをふまえ、自転車に乗車する時は、登下校に限らず常にヘルメットを着用する。

【お家の方へ】 裏面に、11月29日(水)の福井新聞の記事がありますので、ご一読ください。

信号ない横断歩道 車停止率

福井26.7% ワースト3位

信号機のない横断歩道を歩行者が渡ろうとしているときの停止率が福井県内では26・7%となり、7割を超えるドライバーが一時停止しないことが日本自動車連盟（JAF）の全国調査で分かった。停止率は全国平均を大きく下回り、都道

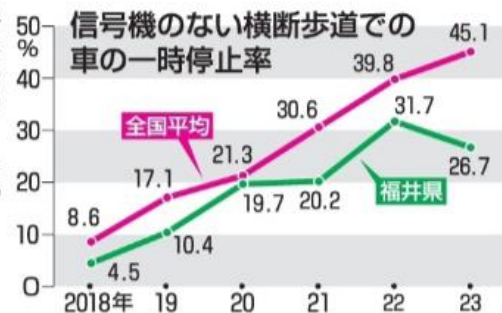
JAF全国調査

府県別でワースト3位。都道府県別の調査結果を2018年に公表して以降初めて前年からダウンし、「車優先」という誤った認識の根強さが浮き彫りとなった。【25面に関連記事】

府県で2カ所ずつ計94カ所を実施。午前10時～午後4時に1カ所当たり50人の歩行者で停止率を調べた。全国平均は前年比5・3%増の45・1%。調査を始めた2016年以来上昇を続けており、過去最高となった。全国最高は長野の84・4%、最も低かったのは

5.0ポイント減、初のダウン

新潟の23・2%。福井県は大阪府と並んで44位。停止率は全国平均を18・4ポイント下回った。低調ながらも右肩上がりを続けていたが、今回は前年から5・0ポイントダウンした。都道府



県別の結果の公表を始めて以降、停止率は18年4・5%（全国33位）、19年10・4%（同34位）、20年19・7%（同25位）、21年20・2%（同40位）、22年31・7%（同34位）と推移している。JAF福井支部は、交通事故が発生しやすい薄暮時（日没の前後1時間）でも独自に調査した結果、一時停止したドライバーは18・9%（日没後8・6%）にとどまった。支部は「歩行者優先」の意識付けを図るとし「歩行者にも反射材の着用を呼びかけていく」としている。（杉本拓磨）